

< 様式 4 > 総合農業技術センター試験・研究課題中間評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立

小課題名：小型コチョウランの新品種育成と栽培技術

細目課題名：

担当者名：窪田浩一、藤木俊也、雨宮圭一、加藤成二、三宅ひろみ

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	5	研究期間3年間で2品種（試験期間前のものを加えると3品種）の有望品種育成成果を得ており、進捗度は高い。
2 研究内容の妥当性	5	大輪系コチョウランは市場で頭打ちであるが、今後伸びることが期待できる小中輪を研究対象としたことは妥当である。
3 研究成果の期待度	5	生産コストの軽減が見込め、値ごろ感のある販売が可能と思われ、花き農家の期待は大きい。
4 研究継続の必要性	5	新品種の普及のためにも栽培技術のマニュアル作成が重要である。市場においては、山梨オリジナル品種が多数必要であり、さらに品種開発を続けてほしい。開花制御に関わる研究も重要である。
総合評価	5	目的に合致した成果を得ている。山梨ブランドとして栽培技術等の完成度を高めることが山梨ブランドの評価につながる。ブランド化のためには宣伝方法の工夫も大切である。

「注」評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

品種登録を行う3品種については、苗が生産者に供給されるまでの期間内に現地試験、展示園等を活用して栽培技術マニュアルを完成していく。また、品種の育成については、2次選抜が完了した7系統や'なごり雪'の変異個体、新規に交配を行った系統の中から有望系統を選抜し、品種登録を目指す。

ブランド化のための宣伝方法については、行政・生産者団体等と協力して進めていきたい。

< 様式 4 > 総合農業技術センター試験・研究課題中間評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：耕地の地力変動に関する調査

小課題名：県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握

細目課題名：定点調査

担当者名：望月久美子、山崎修平、花形敏男

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	4	計画に沿って順調に進め、進捗度は高い。今後、施肥量など変動要因のさらなる解析が望まれる。
2 研究内容の妥当性	4	農家にもわかりやすい情報開示方法を普及部門と協力して進めてほしい。
3 研究成果の期待度	3	分析結果を何に還元するのか不明なところがある。得られた情報の有益な活用法について検討する必要がある。
4 研究継続の必要性	4	課題としては重要であり、継続してデータを得る必要がある。
総合評価	4	定点観測の重要性は評価するが、得られたデータを施肥技術や肥培管理技術に連動させる組織の仕組みが大切である。貴重なデータであり、農家が必要に応じ簡単に見られる情報に工夫してほしい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

これまでに蓄積された調査データについて、肥培管理が地力に及ぼす影響の要因解析を進め、現在開発中の「適正施肥支援システム」の中で、土壌の種類、標高等の地域の立地条件を考慮した施肥体系の構築の場面で活用を図っていく。

また、これらの成果は普及部門へ提供し、適正な地力を維持するための肥培管理指導に活用していく。

定点調査は、同一地点を長期にわたり継続することが重要であるが、産地の動向、営農状況、立地などを考慮し必要に応じ見直しを行っていききたい。

< 様式 4 > 総合農業技術センター試験・研究課題中間評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：有機性資源の有効利用と土壌養分管理技術の確立

小課題名：有機物施用土壌の適正な養分管理技術の確立

細目課題名：

担当者名：長坂克彦、加藤知美、石井利幸、上野直也

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	3	有機物自体が多種多様でバラツキがあること、有機物施用土壌の成分分析に留まっていること等取り組みが多様で、研究の進捗度は高くない。
2 研究内容の妥当性	3	研究内容の整理及び重点化等目標の絞り込みが必要である。
3 研究成果の期待度	4	適正施肥支援システムとの連携が重要である。化学肥料の価格が高騰する中、成果に期待する。
4 研究継続の必要性	3	ネコブ病、苦土欠などの生理障害の観点からの研究も必要である。普及に向けた試験研究方法が大切である。
総合評価	4	化学肥料のコスト高から有機物利用の研究課題は評価する。また、養分過剰の適正化及び環境汚染対策としての課題としても評価する。有機農業を推進していく上でも、有機物の施用は不可欠である。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

現地圃場土壌の成分分析結果から、今後重点的に土壌成分の正常化を図る地域および作目を絞り込み、これまでに明らかにした有機物からの養分供給量をもとに、土壌養分のバランスを保つ有機物の適正な施用技術の開発を図っていく。

また、本課題の成果を現在開発中の「適正施肥支援システム」の中に組み込む予定であり、肥料コストの低減対策と合わせ、適切な有機物施用の指導に役立てていく。